

Let's Know Hiroshima Castle.

しろや！ 広島城



No. 19

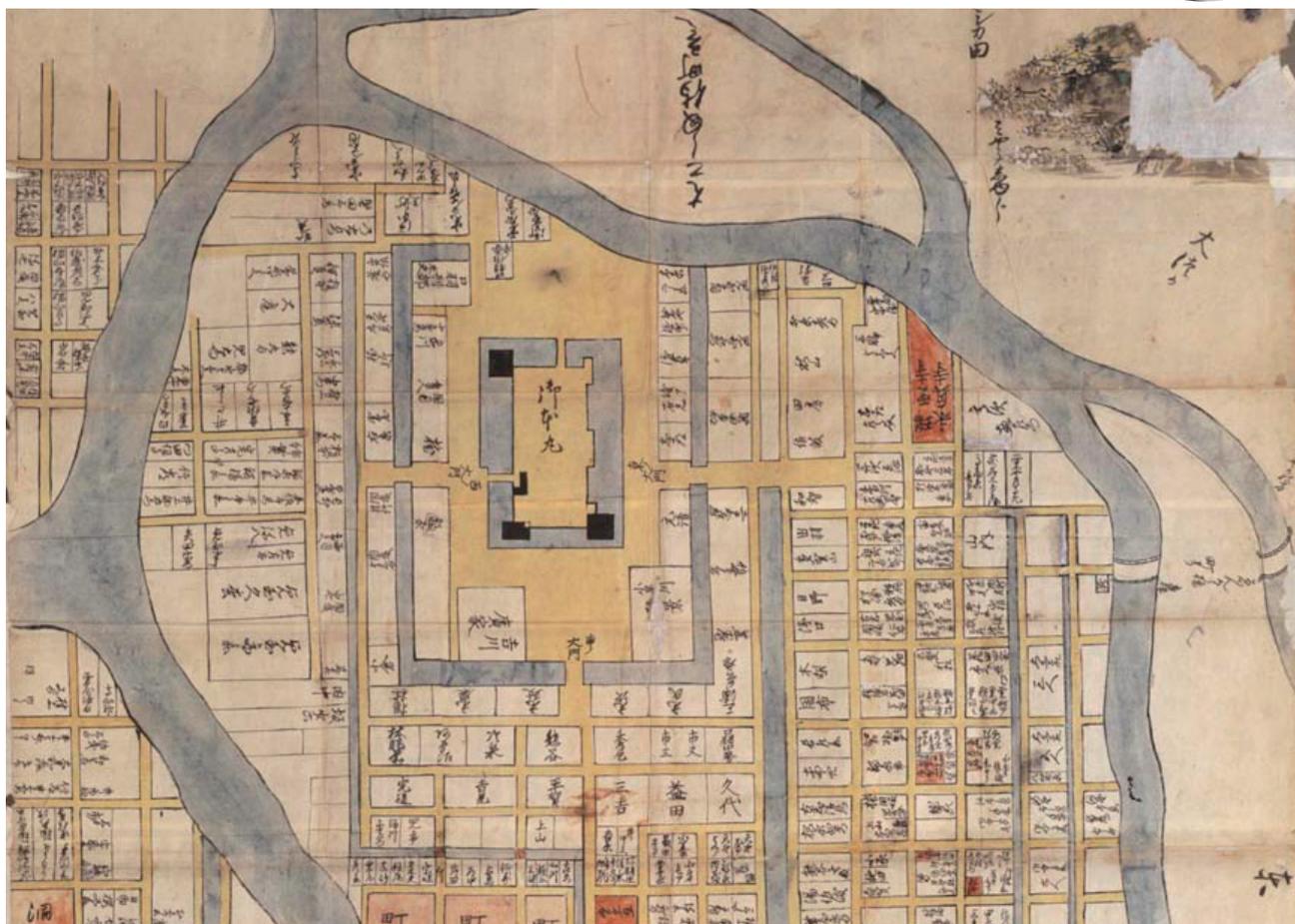


写真1 「芸州広嶋城町割之図」(山口県文書館蔵)

毛利氏時代の広島城について考えてみると… 城郭シンポジウムを実施しました

平成20年、広島城天守閣は、昭和33年(1958)の天守閣再建・博物館(郷土館)開館からちょうど50年の節目の年を迎えました。これを記念し、11月9日(日)に西区民文化センターのホールを会場として、毛利氏時代の広島城に焦点を当てた「城郭シンポジウム」を開催したところ、当日は260名もの方々にご参加いただきました。

今回のシンポジウムでは、歴史学・考古学・建

築学の各分野から講師をお招きし、毛利氏時代の広島城についてお話ししていただきました。

講師は、以下の諸先生にお願いしました。

秋山伸隆先生 県立広島大学教授

三浦正幸先生 広島大学教授

光成準治先生 鈴峯女子短期大学非常勤講師

福原茂樹先生 (財)広島市文化財団指導主事

では、当日の様子を紙面で再現してみましよう！

当日はこんなお話でした

まず、基調講演1では、日本中世史がご専門の秋山伸隆先生に、「城下町広島と平田屋惣右衛門」というテーマで、広島の町づくりについてお話いただきました。

城下町広島と出雲平田の町づくりには共通点があります！

【主なお話】

- ◎平田屋惣右衛門は、毛利氏の招きによって広島の町づくりを行い、後に町人頭となり城下町を支配しました。江戸時代の城下にあった平田屋町という町（現在の中区立町・本通あたり）は、平田屋ゆかりの町です（図1参照）。
- ◎もともと平田屋は、出雲（島根県東部）出身の毛利氏の特権商人で、出雲平田（島根県出雲市）の代官も務め、平田の町づくりも行いました。
- ◎平田の町は水路で宍道湖と、広島は堀川（平田屋川・西堂川）で瀬戸内海と結ばれており、平田と広島の町づくりには共通点があります。

堀川とは運河のこと。平田屋川は現在の中区の並木通り・地藏通りにあたります。400年以上も前に広島の町づくりを行った平田屋惣右衛門のことが、古文書や江戸時代の記録によってから明らかになりました。



図1 平田屋町と堀川の位置

つづく基調講演2では、建築学・城郭史などがご専門の三浦正幸先生に、「築城当初の広島城の姿」というテーマでお話いただきました。

広島城天守閣は、豊臣大坂城を不完全に模倣したものです。内部構造は独特です！

【主なお話】

- ◎毛利氏時代の広島城には、西の外郭はありませんでした。西の外郭は、福島氏時代に福島正則が周防・長門（山口県）へ移った毛利氏を意識し、防備を強化するため増築しました（図2参照）。



三浦正幸先生

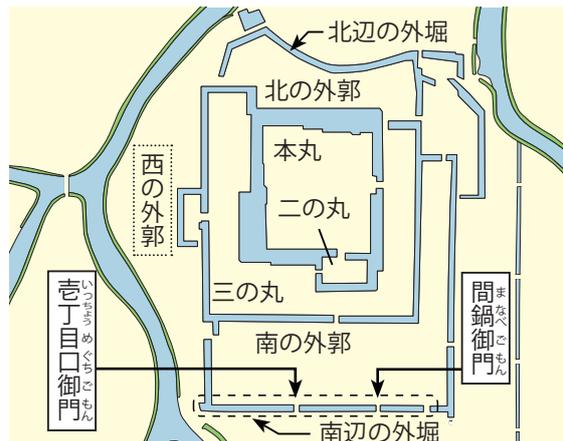


図2 広島城の構成

- ◎広島城天守閣の外観は、豊臣秀吉の大坂城天守閣をやや小さめに不完全に模倣したものです。内部には広島城独特の構造が見られます。
- ◎毛利氏時代の石垣は、角の算木積が未発達です。天守台の角石に見られる台形の石材も、安土桃山時代では広島城だけに見られます（写真2参照）。



写真2 天守台石垣

毛利氏時代の広島城の外壁は、豊臣大坂城と同じ様に黒漆塗りだったとのお話もありました。三浦先生のお話をうかがうと、毛利氏時代の広島城のより具体的な姿が浮かび上がってきますね。

 さて、かねてより広島城に関しては、二の丸が造られた時期が大きな謎となっていました。報告1では、日本中世史をご専門とされている光成準治先生が、「広島城二の丸築造の時期」というテーマでこの謎に迫りました。

広島城二の丸は、1598～1600年頃に築かれた可能性があります！

〔主なお話〕

◎毛利家に伝わった「芸州広島城町割之図」（山口県文書館蔵。写真1参照）は、ある時期の広島城をかなり正確に描いており、その年代は、天正17～18年



光成準治先生

（1589～90）と考えられます。この図は、築城と同じ時期の史料をもとに作られた可能性が高いようです。

◎慶長3～5年（1598～1600）にかけ、広島城ではかなり大規模な改修工事が2年間続いています。その際、二の丸あるいは三の丸馬出しを築造した可能性があります。

 光成先生は、絵図に記されている家臣の「〇〇守」といった名乗りを一つ一つ調べて、絵図に描かれている城下町の景観の年代を調べたそうです。二の丸について新しい説をうかがうことができました。

 最後は、長年広島城跡の発掘調査に従事されている福原茂樹先生。「発掘調査の成果から見た築城期の広島城」というテーマで、お話いただきました。

近年の発掘調査では、毛利氏時代の石垣を発見しました！

〔主なお話〕

◎南辺の外堀は、その東西で異った時期に築かれた可能性があります。「壹丁目口御門」と「間鍋御門」の櫓台は、南辺の外堀が造られた後、17世紀代（江戸時代初期）



福原茂樹先生

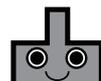
になって新たに造られたものです。北辺の外堀は17世紀代になって堀として整備された可能性があります（図2参照）。

◎この様な発掘調査の結果は、「芸州広島城町割之図」や江戸時代の記録の内容と一致します。「芸州広島城町割之図」に関しては、毛利期のある時期、絵図に描かれているような広島城の姿が実在した可能性ができました。

 中区の紙屋町地下街（シャレオ）の工事に伴って行われた南辺の外堀の発掘調査では、毛利氏時代の石垣が発見されたそうです。この発見がそれまでの広島城に関する考え方を見直すきっかけとなり、研究が進んだのですね。

 その後、三浦先生・光成先生・福原先生には毛利氏時代の広島城について熱く討論していただきました。今後広島城についてさらに考えてゆくには、様々な分野の専門家のご意見をまとめる必要があります。さらなる発展が期待されます！（篠原）

参加者の皆さん のご意見から



シンポジウム当日のアンケートでは、参加者の皆さんから貴重な意見をいただきましたので、ここでいくつか紹介したいと思います。

- ◇「毛利氏時代と福島氏時代の櫓や石垣の違いをよく理解できた。発掘調査による門と櫓台の改修が判明したことは大変興味深かった」
- ◇「平田屋惣右衛門の働きは知っていたが、奥行きを知ることができて大変興味深かった。二の丸の築城時期についても、綿密な考証に脱帽した。広島城のことで、こんなに新しい知見があつて意外だった。『知っている』と思い込んでいたことを知った」
- ◇「文献・発掘 etc. で意見がそれぞれにあるということがわかり、また、今後への楽しみが出てきましたのでよかったです」

展示のお知らせ

広島城収蔵品展「神楽面と衣装」

躍動感のある笛や太鼓などの囃しとともに、
きらびやかな衣装につつまれ、いきいきと舞う



神楽面 大蛇頭

人々。毎年、秋の夜長には各地の神社で神楽が舞われ、多くの人々がこれを楽しんでいます。特に広島県内は神楽が盛んな地域で、現在も多

くの神楽団が活躍しています。

この神楽の歴史は古く、「神座」(神がいる高き尊き場所)に神を迎えて、その前で神事が行われたことから生まれたといわれています。本来宮廷で行われる、神事としての要素が強かったのですが、次第に神事に含まれる歌と舞中心へと変化しました。そして、宮中で行われていたものが簡略化され、神社へ移入され、広まりました。全国的に様々な神楽の系統がありますが、広島は主に^{いずも いわみ}出雲・石見系神楽の影響を受けています。ただし、太田川流域から沿岸部では若干構成を異にする^{じゅう に じん ぎ}十二神祇系神楽が舞われています。

広島城が収蔵している神楽面と



演目 「^{あだちがはら}安達原」 ^{かみいし}上石神楽団提供

衣装は、芸北地域で明治時代から昭和三十年代にかけて使用されていたといわれているものです。芸北の神楽は、能舞を主体とする芸能としての性格が強く、備北地域の^{こうじん}荒神神楽が神事・

祭儀が主体であるのに比べ、きわめて対照的です。このため、面や衣装には工夫が凝らされ、表情豊かで、華やかなものとなっています。

この展示会は、面や衣装とともに、演舞の写真や映像で神楽の魅力を味わっていただき、郷土の芸能に改めて関心を寄せていただければと思っています。神楽を見たことがある人もない人もこの機会に悠久の神話の世界を楽しんでみてはいかがでしょうか！



神楽衣装 ^{そうしゅ}抓珠龍文 ^{よてん}四天

しろうや
!
広島城

編集・発行

財団法人広島市文化財団
広島城

〒730-0011
広島市中区基町 21-1
電話：082-221-7512
FAX：082-221-7519

平成21年2月 日発行

広島城利用案内

開館時間 9:00～18:00
(12月～2月の平日は9:00～17:00)
入館の受付は閉館の30分前まで

入館料 大人360円(280円)
小人180円(100円)
()内は30名以上の団体料金

休館日 12月29日～1月2日

ホームページ <http://www.rijo-castle.jp>



携帯サイト

「しろうや!広島城」のバックナンバーは、広島城のホームページからダウンロードできます